

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1471902120
法人名	特定非営利活動法人 福祉ワーカーズコープ ふれんど
事業所名	グループホーム ふれんど
訪問調査日	平成20年8月26日
評価確定日	平成20年10月17日
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月22日

【評価実施概要】

事業所番号	1471902120		
法人名	特定非営利活動法人 福祉ワーカーズコープ ふれんど		
事業所名	グループホーム ふれんど		
所在地 (電話番号)	横須賀市大矢部3-30-6 (電話) 046-837-6623		
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成20年8月26日	評価確定日	平成20年10月17日

【情報提供票より】(20年8月6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 12月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	7 人
職員数	11 人	常勤 3人, 非常勤 8人, 常勤換算3.8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造スレート 造り 2階建ての 1階 ~ 2階部分		
------	------------------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 ~ 70,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有 3年
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300円		

(4) 利用者の概要(8月26日現在)

利用者人数	7 名	男性	2 名	女性	5 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低 77 歳	最高 91 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	汐入メンタルクリニック、医療生協衣笠診療所
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>このグループホームは京急線北久里浜駅より徒歩20分の地にある。小学校や散歩道が整備された緑豊かな住宅街の中の1軒屋を改装して作られた。創設者は生協関係の仕事に長年携わっており、介護や福祉の重要性を認識した20年前から独学で勉強を重ねて、事業を展開している。理念が明確化され、職員は認知症介護の重要性を深く認識している。定員が7名のこじんまりしたホームだが、管理者以下、職員を多く配置しているので、緊急時にも十分対応できる。職員も生き生きと働いておりアットホームな雰囲気である。</p> <p>併設のデイサービスの利用経験がある利用者が多く、地元の知人などの訪問も多い。介護計画作成担当者が近隣に居住する看護師であるため、医療面でも安心感がある。中庭でデイサービスと繋がっており、交流も盛んで、利用者はデイサービスの職員とも顔なじみである。利用者同士大変仲がよく、笑顔が絶えない。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価での改善課題はなかった。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>3回目の外部評価である。職員ミーティングの際に全員に周知した。回覧で全員が自己評価に目を通し、書き込みをした。その際、職員の多くが「自分の業務を見直すきっかけとなった」と報告している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>今年度は4月に「事業所連絡会」と称する運営推進会議が開かれ、民生委員、地元代表、家族代表と管理者、計画作成担当者が出席した。その中でグループホーム側から集会場のない地元に対して、会議室の開放を申し出た。また地域包括支援センターや近隣のグループホーム、行政などが参加する「運営推進会議」と呼ばれる地域ケア会議もある。地元への事業所の宣伝やサービスの周知に運営推進会議を生かしたいと考えており、8月末の第2回会議の開催に向けて準備中である。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>これまで家族からの苦情はないが、意見は面会の際や交流会に出席した家族から聞くようにしている。</p> <p>家族の参加意識は高く、行事への協力や、日頃の手伝いなどもよくしてもらっている。今後は運営推進会議などを活用して家族の意見を運営に反映させたいと考えている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入している。ゴミの掃除当番や回覧板も回ってくる。隣人が草取りをしてくれたり、庭のびわを分けたお礼にサツマイモを頂いたりしている。夏祭りにはご近所の方を招待した。</p> <p>地元の4つの中学校とも交流があり、ボランティアや見学などをしに多くの生徒が訪れている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自分も住みたいと思うホームを目指して「その人らしく・ゆっくり・臨機応変・楽しく」と4つのスローガンを掲げている。 また、開設時の理念を「グループホームふれんど 理念」に掲げ「グループホームふれんど 倫理綱領」と共に大切にしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念と倫理綱領は玄関に掲示されている。また、新人研修マニュアルにファイルされ、全員が所持している。4つのスローガンは居室や冷蔵庫のドアに張り出されて、いつでも目にすることができる。 現場で困った時は理念に立ち戻って考えるよう指示しており、ミーティング時に読み合わせることもある。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、ゴミの掃除当番や回覧板も回ってくる。隣人が草取りをしてくれたり、庭のびわを分けたお礼にサツマイモを頂いたりしている。夏祭りには近所の方を招待した。 地元の4つの中学校と交流があり、ボランティアや見学などに多くの生徒が訪れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	8月のミーティング時に、今回の外部評価について周知し話し合った。その折に、多くの職員の意見を聞くために、自己評価を回覧した。多くの職員が「自己の業務を見直すきっかけとなった」と感じている。また過去2回の評価結果については真摯に受け止め、入居者の意欲が湧くような歌やゲームを取り入れたり外部研修に積極的に参加するなど、改善に取り組んできた。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4月に初めての運営推進会議を行った。民生委員や地元代表、入居者家族、管理者などが出席し、今後の協力方法を確認し合った。 次回は8月末に開催予定である。今後、会議での意見をサービス向上に生かしていくことが期待される。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議と呼ばれる地域ケア会議が行われ、地域の複数のグループホームや地域包括支援センター、行政が定期的に会合している。 行政の主催する学習会への出席のほか、行政のアンケート依頼にも積極的に応じている。また生活保護を受けている利用者について担当課と定期的に連絡を取り合っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	地元在住の家族が多いので利用者についての報告書等は郵送より面会時に直接手渡すことが多い。また、口頭での伝達も多い。金銭の管理は個別に小遣い帳をつけており、来所の際に確認してもらっている。通院は職員が対応するので、家族には電話での受診の報告を行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はないが、年に1回家族交流会がある。今年も11月に予定されている。これまでに運営に関して家族からの意見はない。交流会を通じて、直接意見が聞けるよう努力している。今後は運営推進会議などを利用して家族の意見を運営に反映させたいと考えている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が退職する時は、利用者が動揺しないように、知らせないようにしている。新しい職員が丁寧に対応することで、落ち着いて生活している。 退職した職員も、時折遊びに来てくれる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修はマニュアルに添って実施するほか、現場では先輩が一人ひとり新人に付いて教えている。年間の研修計画に沿って毎月のミーティングで必要な研修を行うほか、現場でも必要に応じて教育している。 外部研修には職員を交代で派遣し、研修報告を受けて学習内容を職員間で共有している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当事業所の代表が横須賀市グループホーム事業所連絡協議会の幹事を引き受けている。協議会では学習会を企画するほか、職場交換研修を毎年行っており、グループホームのサービスの質の向上に役立っている。今年度も10月に予定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に訪問し詳細なアセスメントをしている。家族も随時見学が出来る。空室を利用したショートステイも行ったことがあるが、現在では待機者も多く、空室がないので実施は難しい。</p> <p>同じ敷地内のデイサービスの利用経験者が多く、入居当初から職員に馴染んでいる人も多い。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者同士仲がよく、共に支えあっている。</p> <p>職員も利用者に慰められる場面が多く、調査当日も手にやけどをした職員を、利用者が心配して慰めていた。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>個人ファイルにアセスメントや介護計画書が綴られている。本人の想いはできるだけ本人に語ってもらうよう、職員も留意し聞き出している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>個人日誌に、毎日個別の観察記録を残している。職員は出勤すると必ずその記録を読み、引継ぎを行っている。</p> <p>月1回のカンファレンスで職員は忌憚のない意見を述べ、介護計画書作成者は職員や家族の意見を介護計画書に取り入れている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は概ね4ヶ月ごとに見直されている。急な変化が認められたときは、期間にとらわれず見直している。介護計画書には利用者の家族のサインがあったが、日付けが記入されていない。</p>		<p>介護計画書に家族の同意のサインや同意した日付の記載が出来るよう、書式の見直しが望まれる。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	空室があるときには、ショートステイの受け入れが可能である。 また同一敷地内にある、デイサービスに遊びに行くこともできる。散歩や行楽に参加しない利用者がいた場合は、デイサービスを利用してもらうなどの対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院は多くあるが、以前からのかかりつけ医を希望する場合の通院は原則家族が行う。ただし、忙しい家族に代わって職員が行う場合が多い。 訪問医の協力もあり、内科の検診は月に1回、精神科の受診は月に2回行われている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の看取りに関しては職員の間で「できる限り看ていこう」と合意ができています。看取りを行った経験が一度ある。 個別に何がどこまでできるか、またどうすることが適切なのかを、家族、職員、医療機関等と連携を持って話し合っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員とは情報の守秘義務について誓約書を取り交わしている。新人研修の際にプライバシー保護の意義や個人情報の扱いを研修内容に盛り込んでいる。日頃のケアでは、利用者のプライドを傷つけるようなことは言わないことなどを職員に徹底している。訪問日には職員の不適切な言動などはなかった。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事のメニューは当日話をしながら利用者と決めている。入浴日は決まっているが、毎日入りたいという希望がある場合には対応している。調査当日には、急に「散歩に行きたい」という利用者に対し、予定を変更して、午後から職員が散歩に同行していた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食堂のスペースが狭いため同じテーブルには着けませんが、職員は利用者の見える位置に座り、利用者と同じ食事を取っていた。 当日は介助の必要な利用者はいなかったが、介助が必要な場合には職員のテーブルと一緒に食事をするようにしている。利用者がテーブルを拭いたり食器を片付けたりしていた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日と時間をあらかじめ決めてはいるが、リクエストがあったり毎日入浴したい入居者にはできる限り対応している。入浴を嫌がる利用者にはタイミングをとらえて声かけをしたり、足浴や清拭に変えて対応している。 入浴剤を入れたり、赤い暖簾をかけたりして入浴の時間を楽しめるように工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	皆家事が好きなので、役割を分担し、なるべく皆できるようにしている。水音が聞こえると「やりましょうか」と布巾を持ってくる利用者もいる。 本が好きで職員に毎月雑誌を購入してもらっていたり、歌が好きで食事前に大きな声で歌っている利用者もいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩のコースは2つあり、途中で小さなお店に立ち寄るのを楽しみにしている利用者もいる。買い物は生協の宅配を頼んでいるが、足りないものを利用者と共に車で買いに出ることもある。クリスマスのイルミネーションを見るために夜、皆で出かけたり、近隣の花の名所に職員と車で行くこともある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関のドアは防犯のために鍵を掛けているが、裏口やベランダの鍵はかけておらず、利用者はいつでも外に出ることができる。隣のデイサービスには自由に行き来でき、中庭で交流もしている。 各居室には鍵はついていなかった。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導により、5月に避難訓練を職員と利用者で行った。 水や食品の買い置きや備蓄は常に用意されており、災害時は近隣の方を受け入れる用意もある。今後運営推進会議や町内会などを通じて連携を深めて行く意向である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に体重・血圧・脈・食事の摂取量・入浴のチェック表があり、毎日観察している。3月に献立を栄養士にチェックしてもらいアドバイスをもらっている。 夕食は「介護食士」の資格を持った専門職員3名が交代で調理している。介護食士は朝・昼の食事の献立をチェックし、それを基に夕食の献立を立てており、一日の栄養バランスを夕食で補完できる仕組みになっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普通の民家を改装している住宅で、和室もそのまま使用しており、利用者にとっては慣れ親しんだ雰囲気である。家具・備品も古い家具やたんすをうまく利用しており、違和感がない。玄関の大きな鏡もすだれなどを利用し、さりげない飾り付けで利用者には不安を与えないよう工夫されている。 採光のための出窓がたくさんあり、出っ張り部分には小さなカーテンをつけて安全面に配慮している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室が多く、落ちついた雰囲気である。利用者が以前から使用していた、たんすやベット、椅子、鏡台、家族の写真、好みの本などが持ち込まれていた。 なるべく違和感がないよう、アセスメントの時に自宅の家具の配置を記録し居室での配置を考慮するなど、本人が早く居心地よく過ごせるような工夫をしている		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホームふれんど
所在地 (県・市町村名)	横須賀市大矢部3 - 30 - 6
記入者名 (管理者)	阿部智子
記入日	平成20年 8月 9日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自分の子供がこのホームでくらすたらいいなと思えるホームみする。自分がしてもらいたいと思う事をする。	○	入職時に理念を話し、資料を渡す。ミーティング時に確認しあっている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々いろんなことがある中で、自分だったら...家族だったら...、という立場で考え、話し合っている。		シフト時、ミーティング時にお互いの考えを話し合うようにする。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族に対して、来所時等話している	○	事業所会議の場で、地域の方々の意見を聞くようにする。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ご近所の方とは、挨拶や立ち話をさせていただいている。中庭でバーベキューや花火をする時には、事前に声をかけおすそ分けをしている。	○	ご近所の方には、外でお話するだけでなく、ホームに入ってきていただきたいと思っている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	回覧板をまわしたり、ごみ集積場の清掃当番をしたりしている。		盆踊りや、近くの小学校の行事を見学させていただきたいと思っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	具体的なことはしていない。	○	地域の高齢者のニーズを把握できるように、事業所会議を活用したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日々を省みることに精一杯で、評価を生かした改善という取り組みを日常的にはしていない。ミーティング時に話すことはある。	○	一人ひとりに改善策を出してもらえるといいと思う。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見を出し合っている。まとめた意見をミーティング時に話している	○	連絡ノートにも記入して読んでもらっている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	迷うことがあるときには、市の方に相談し確認している	○	
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	学習会に参加している。入居者7人のうち2名がこの制度に入っている。	○	行政書士の先生方に相談している。その先生方を利用者の家族に紹介できる。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	精神科医の開く講習会に参加している。	○	ミーティング時に資料を配り、自覚を促している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	説明を丁寧に話し、納得していただいている。	○	日頃より、グループホームの限界点や責任範囲ははっきり説明している。
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	何かあったら、いつでもお話し下さいと言っている	○	苦情は前向きに受け止めるようにしている。申し送りや連絡ノートで、職員に伝えている。職員は、苦情を言える入居者さんが、そのレベルでい続けてほしいと言っている。
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	報告している	○	手紙のコピーを残しておくことにしたい
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	いつでもなんでも、ご遠慮なくおっしゃって下さるように、お願いしている。	○	あまり意見苦情がない
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	ミーティング時に、意見交換している。	○	ミーティング時に意見を言える職員だけではなく、シフト時の一言も取り上げている。
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	努めてはいるが、職員の事情もあり、難しい。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	努めてはいるが、難しい。ダメージはない	○	移動はない。職員の離職が続いたが、スムーズに入れ替わった。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成のため、必要な研修に参加してもらっている。	○	報告書を提出、ミーティング時に報告してもらっている。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会を通じて学習会や研修会がよく開かれるので交代で参加している。	○	同じ地域のグループホームの相互訪問を行っている。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	よく話を聞くようにしている。	○	シフト時や、親睦会の時職員の思いを聞いている。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得時や向上心を持って働いている時には、経済的な形でエールを送っている。	○	もっとたくさんエールを送りたい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に必ず面談し、話し合う。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前のご家族との話し合いは、丁寧にするよう努力している。	○	アセスメント研修をしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他事業所のケアマネージャーからの話が多いため、ホームの介護計画者との連携プレーで色々な情報を得ることが出来る。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必ず見学に来ていただき、安心感を持ってから入所していただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	歌を歌ったり、また戦時中の思い出話に花を咲かせたり、共に泣き笑い生活している。	○	認知症の重度、軽度の差がこのところ非常に大きく出てきてその差を埋めていくレクリエーション、会話に苦労している。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も嫁の立場、娘の立場の方の悩みは違い、職員にもそれが理解でき、各々の方とお話している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	支援している	○	支援しているが、家族の方が安心されてホームに任せっぱなしのところもあり、時々複雑な思いもする。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方、知り合いの方なども来ていただいて、時々写真も撮っています。		回数を重ねていただけないのが悩みです。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	みなさんが輪に入れるようなレクリエーションや会話、お手伝いなどをお願いしている。	○	症状の差がひどくでてきてみんな共に、が難しくなってきた。優越感、劣等感の助長にならないように工夫している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所し、新しい所に移られてもお見舞いに行ったり、ご家族も近況を知らせて下さったりしている。		面会に行きたいが、機会を作ることが出来ないでいる。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員がそれぞれ入居者把握に努めている。情報は、申し送りや連絡ノートですべての職員が、周知するようにしている。	○	ミーティング時にも個々の人の希望、状況を報告してもらい全体のものになっている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネジャーやご家族の方からの情報の他、ご本人との会話から把握している。	○	入浴時、その入浴担当者に若かったころの話、現在の心境をゆっくり話すことが多くそれを記録しておく。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	歌や体操。ぬりえ、計算ドリルあるいは雑巾縫い等で判断できる。	○	食欲、箸の持ち方、食べ方でもその日の状況が理解できるので個人日誌につけておいてもらう。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画担当者が観察し、また提携医と相談して計画を作成している。	○	計画者が元看護師なのでチェックは厳しく意見もはっきり言っている。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画担当者が細かく家族の方とも連絡を取り計画をたて、市とも相談している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタルチェックの記録の他、日常の健康チェックの記録、個人日誌などがある。また職員間の引き継ぎノートが重要な役割を持っている。	○	数多い記録を見ると全てその利用者個々の状態がわかり計画を立てるときに大きな参考になる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同じ敷地内にあるデイサービスを利用しているご家族からホーム入居を依頼されることもある。	○	3年経過しているのでホームに空き部屋ができたときショートに入りたいという希望者がいる。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員さんも時々来て下さる。またフラダンス・歌(コーラス)などのボランティアさんも来ていただいている。		文化関係のボランティアさんに来ていただくが認知症のレベルが高いのでその反応があまり見えずボランティアさんに申し訳がない時がある。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域で行われている高齢者の食事会や、「ひだまり」と言う宅老所に参加している。		週に1回の参加で人数が限られているため同じ敷地内のデイサービスに遊びに行けるようにしたい。(同じ敷地内の)
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	1度だけ抱括センターの方が見学に来られたが、その後コンタクトしていません。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム設立時より強力な力を貸していただいております、安心して過ごしている。	○	真夜中でも直接電話をして指示していただく事もあり感謝している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	設立時より認知症専門医の往診をいただき、入居者の入居者全ての認知度、症状を把握していただいている。	○	薬、ご家族との相談、話し合いにも、かかわっていただきありがとうございます。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	介護計画者がかかりつけ医の元看護師だった為、日常の健康管理の連携プレーはきちんとされている。	○	ご家族にも何かあると細かく報告するので安心していただいている。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	情報交換している	○	
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	御家族が希望され本人も痛みなどなければ、ホームで週末を迎えることにしている。以前一人看取りをした事がある。	○	肝臓がんと診断された入居者さんに対して、やれるところまで介護して行こうと、職員で話し合っている。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	取り組んでいる		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	先方の方に面接に来ていただき十分な情報交換をしている。		移った先で元気になっていると聞くと安心する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報には絶対に守ることを入職時より契約している。	<input type="radio"/> 個人を傷つけることは話題にしない。このことは、職員すべてよく理解している。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一つ一つの行動を～しましょうか？という声のかけ方になっている。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日一日をどう過ごしたいかを聞くことは出来ていない。	<input type="radio"/> 希望の内容によっては実現できるが、難しいことは(おやじに会いたい)出来ないでいる。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床時、入浴時に希望を伺っている。理容者は決まっている。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ふきや、たまねぎの皮をむいてもらったり、食器を拭いてもらったりしている。	<input type="radio"/> 盛り付けなども、手伝ってもらえたらいいと思うが、入居者に拒否がある。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒者、喫煙者なし	<input type="radio"/> 誕生日などは、ジュースで乾杯している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	充分支援している	○	排泄パターンを把握して声掛けをしている
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には曜日を決めてあるが必要に応じて変えている。	○	週に2,3回入ってもらっている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	充分支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物を干しやたたみ、掃除機を掛けたり、お茶碗を拭いて貰ったりしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スーパーに時折行くが買い物にはあまり興味を示さない。出かけたときに、お土産を買いましょうと声掛けしても誰も買いませんでした。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候のいい時期には、庭に出て園芸を楽しんだり日向ぼっこをしながら歌を歌ったりしている	○	庭で焼き芋を焼いたり、散歩に出かけたり、は日常的に行っている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お花見、お楽しみ会、紅葉狩り、イルミネーション見物など季節を感じるように出かけている。夏祭りも楽しんだ。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、電話、自由に使ってもらっているが、ほとんど使用しない。遠方に住む家族に行事の写真を送ることもある。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	自由にいらしていただき、ゆっくり過ごしていただいている		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束はまったくない		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は防犯のため施錠しているが、リビング側は開放している	○	徘徊者はいないが、いる場合は皆さんに理解してもらった
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	十分支援している		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬は、鍵にかかるロッカーに入れてあり、その他危険物はない		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを作り徹底している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ミーティングに度々確認している。避難訓練も行っている。	○	リビング、キッチンなどの壁に大きく指示書を張ってある
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導により避難マニュアルがある		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族の方にはよく理解してくださっている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員の引継ぎ時に詳しく情報提供し、連絡ノートにも書いてある	○	大きい異変の場合は職員へ連絡網をまわす
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	詳しい説明を引継ぎは常に行っている		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	取り組んでいる		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケア、入床時の義歯を外すことは徹底している	○	必要に応じて、歯科医の往診をお願いしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	十分支援している	○	起床時、朝食時、10時、昼食時、3時、夕食時の計6回は必ず水分補給をしている
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防注射など、職員、利用者ともに実行している	○	職員は調理前の手の消毒、入居者の排泄介助後の消毒、風邪気味のときの休みは徹底している。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	管理は徹底している	○	食べ残しは廃棄し、賞味期限は厳守している
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花や手作り品など常に飾っている	○	家庭的な雰囲気になるように、工夫している。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	十分工夫している。	○	清潔で飾りすぎず自然体の空間作りを目指す。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う人同士のお喋りなど、いつも楽しそうに過ごしている。	○	リビングルームのテーブル、ソファなどの配置換えをして雰囲気を変えてみた。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ家具を持って来ている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	全室エアコン完備、こまめに調整している		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレにもセンサーをつけるなど、機能を生かしながらも気を配ることを徹底している		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	まめに声掛けしている	○	共有のタオル、ハンカチは禁止。毎日使うハンカチを起床時にお渡しして、ポケットに入れていただいている。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節の果物を、収穫してお茶やおやつの際にいただいている。	○	天気のよい日は、庭に出て日向ぼっこをしたり、歌を歌ったりしている。草取りもお願いしている。

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

その人らしく、生き生きと毎日過ごしていただいています。職員同士も励ましあい、切磋琢磨しています。